

令和5年度 国語科 シラバス

1.	午前部	現代の国語	初級	・・・	P 2
2.	午前部	現代の国語	標準	・・・	P 3
3.	午前部	言語文化	初級	・・・	P 4
4.	午前部	言語文化	標準	・・・	P 5
5.	午前部	国語表現		・・・	P 6
6.	午前部	現代文A		・・・	P 7
7.	午前部	現代文B		・・・	P 8
8.	午前部	古典A		・・・	P 9
9.	午前部	古典B		・・・	P 10
10.	午後授業	言語活用A		・・・	P 11
11.	午後授業	言語活用B		・・・	P 12
12.	午後授業	教養国語		・・・	P 13
13.	午後授業	古典基礎		・・・	P 14
14.	午後授業	現代文B		・・・	P 15
15.	午後授業	古典B		・・・	P 16
16.	夜間部	現代の国語	初級	・・・	P 17
17.	夜間部	現代の国語	標準	・・・	P 18
18.	夜間部	言語文化	初級	・・・	P 19
19.	夜間部	言語文化	標準	・・・	P 20
20.	夜間部	国語表現		・・・	P 21
21.	夜間部	現代文A		・・・	P 22
22.	夜間部	現代文B		・・・	P 23
23.	夜間部	古典A		・・・	P 24

現代の国語 初級 (午前部)	単位数	2単位
	履修区分	必履修

1 科目の概要

学習目標	これからの社会や生活に必要なことばの基礎的な力として、「話す・聞く」「書く」「読む」力を身に付けることを目指す。他者に共感する力、論理的に考える力、言葉で伝え合う力を高める。		
使用教科書	「新編 現代の国語」(大修館書店)	補助教材	授業プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	1 ことばをひらく	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の正確な意味や正しい用法やさまざまな使い分けを理解し、言葉の基礎を固める。 ・説明の仕方やインタビューのポイントを知り、聞く力を高める学習に取り組むことで、論理的・共感的なコミュニケーションを学ぶ。 ・主張と根拠、具体と抽象、類推・対比などの論理の読み解き方を知ること、読む力を高める。 ・小説の内容理解をもとにしたポップ作成。
	2 日本語を使いこなす ・整った文を書く	
	3 わかりやすく説明する ・絵や写真を説明しよう	
	4 聞く力を育む	
	5 論理を読み取る *「夢十夜」のポップを作る	
後期	6 伝え合いのレッスン	<ul style="list-style-type: none"> ・対話のレッスンや意見文の書き方を学習することで、双方向のコミュニケーションについて学びを深める。 ・小説の内容理解をもとに自分の考えを伝える。 ・情報の吟味の仕方や依頼状の書き方などを通して、実社会・実生活との関連が深い課題に向き合い、読む力とともに課題解決のための表現力を培う。
	7 説得力を高める *「羅生門」について自分の意見を伝える。	
	8 情報と向き合う ・レポートを書こう	
	9 他者を動かす ・依頼状を書こう	
	10 社会に目を向けて	

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習の過程において、表現に必要な言葉の特徴や使い方、論理的な文章読み取るための知識及び技能を身につけている。定期考査や授業内のテストで知識の習得と技能の向上を図り、評価する。	目的や場面、状況などに応じて必要な知識・表現を的確に選び、言葉で表現し、伝え合う力を身に付けている。授業中の取り組み、発言等で評価をする。	授業に主体的・協働的に取り組もうとするとともに、学習の目標を達成するために工夫している。授業中の取り組み、発言、ノートやレポートにおける記述、テストの応用問題等で評価をする。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

現代の国語 標準 (午前部)	単位数	2単位
	履修区分	必履修

1 科目の概要

学習目標	これからの社会や生活に必要なことばの基礎的な力として、「話す・聞く」「書く」「読む」力を身に付けることを目指す。他者に共感する力、論理的に考える力、言葉で伝え合う力を高める。		
使用教科書	「新編 現代の国語」(大修館書店)	補助教材	授業プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	1 ことばをひらく	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の正確な意味や正しい用法やさまざまな使い分けを理解し、言葉の基礎を固める。 ・説明の仕方やインタビューのポイントを知り、聞く力を高める学習に取り組むことで、論理的・共感的なコミュニケーションを学ぶ。 ・主張と根拠、具体と抽象、類推・対比などの論理の読み解き方を知ること、読む力を高める。 ・小説の内容理解をもとにしたポップ作成。
	2 日本語を使いこなす	
	3 わかりやすく説明する	
	4 聞く力を育む	
	5 論理を読み取る	
	* 「夢十夜」のポップを作る	
後期	6 伝え合いのレッスン	<ul style="list-style-type: none"> ・対話のレッスンや意見文の書き方を学習することで、双方向のコミュニケーションについて学びを深める。 ・小説の内容理解をもとに自分の考えを伝える。 ・情報の吟味の仕方や依頼状の書き方などを通して、実社会・実生活との関連が深い課題に向き合い、読む力とともに課題解決のための表現力を培う。
	7 説得力を高める	
	8 情報と向き合う	
	9 他者を動かす	
	10 社会に目を向けて	
	* 「羅生門」について自分の意見を伝える。	

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習の過程において、表現に必要な言葉の特徴や使い方、論理的な文章読み取るための知識及び技能を身につけている。定期考査や授業内のテストで知識の習得と技能の向上を図り、評価する。	目的や場面、状況などに応じて必要な知識・表現を的確に選び、言葉で表現し、伝え合う力を身に付けている。授業中の取り組み、発言等で評価をする。	授業に主体的・協働的に取り組もうとするとともに、学習の目標を達成するために工夫している。授業中の取り組み、発言、ノートやレポートにおける記述、テストの応用問題等で評価をする。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

言語文化 初級 (午前部)	単位数	2単位
	履修区分	必履修

1 科目の概要

学習目標	これまで受け継がれてきた我が国の言語文化について学ぶことを通して、現代文や古文、漢文などの文章を的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。		
使用教科書	「新編 言語文化」(大修館書店)	補助教材	授業プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	<ul style="list-style-type: none"> ことばと出会う「言葉の森を育てよう」 古文に親しむ「古文への招待」 「児のそら寝」 漢文に親しむ「訓読のきまり／格言／再読文字」 物語を受け継ぐ「羅生門」 物語の広がり「伊勢物語」 現代に生きる言葉「守株」 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉についての筆者の考えを読み取り、言葉が果たしている役割を理解する。 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 漢文の訓読のきまりについて理解する。 漢語・漢文と我が国の言語文化の関係について理解を深める。 小説の構成をとらえ、登場人物の心情の変化を読み取る。 登場人物の行動や場面の展開を正確に把握する。 和歌に表れた心情を読み取り、本文の中で和歌が果たしている役割を考える。 「株を守る」という言葉の意味について、考えを深める。
後期	<ul style="list-style-type: none"> ことばと生きる「コルベ神父」 随筆を楽しむ「高名の木登り」 古人に学ぶ「論語 学問のすすめ／社会に生きる」 近代文学に触れる「夢十夜」 旅への思い「土佐日記」 漢文を楽しむ「完璧」 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の展開のしかたを的確にとらえ、筆者の考えを理解する。 作者のものの見方や感じ方について、自分の考えをもつ。 『論語』の内容を正確にとらえ、学問と人生について孔子の考え方を理解する。 作品の状況設定を的確にとらえ、叙述から人物の心情や象徴性を読み取る。 文章の展開や和歌の内容に注意して、登場人物の心情を読み取る。 古人が示した知恵や教訓について、正確に理解する。

3 評価基準と評価方法

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習を通して、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。授業中の取り組み、発言、テスト等で評価する。	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方をとらえ、作品の内容を解釈している。授業中の取り組み、ノート、テスト等で評価する。	授業に主体的・協働的に取り組もうとするとともに、学習の目標を達成するために工夫している。授業中の取り組み、発言、ノートやレポートにおける記述、テストの応用問題等で評価をする。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

言語文化 標準 (午前部)	単位数	2単位
	履修区分	必履修

1 科目の概要

学習目標	これまで受け継がれてきた我が国の言語文化について学ぶことを通して、現代文や古文、漢文などの文章を的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。		
使用教科書	「新編 言語文化」(大修館書店)	補助教材	授業プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	<ul style="list-style-type: none"> ことばと出会う「言葉の森を育てよう」 古文に親しむ「古文への招待」 「児のそら寝」 漢文に親しむ「訓読のきまり／格言／再読文字」 物語を受け継ぐ「羅生門」 物語の広がり「伊勢物語」 現代に生きる言葉「守株」 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉についての筆者の考えを読み取り、言葉が果たしている役割を理解する。 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 漢文の訓読のきまりについて理解する。 漢語・漢文と我が国の言語文化の関係について理解を深める。 小説の構成をとらえ、登場人物の心情の変化を読み取る。 登場人物の行動や場面の展開を正確に把握する。 和歌に表れた心情を読み取り、本文の中で和歌が果たしている役割を考える。 「株を守る」という言葉の意味について、考えを深める。
後期	<ul style="list-style-type: none"> ことばと生きる「コルベ神父」 随筆を楽しむ「高名の木登り」 古人に学ぶ「論語 学問のすすめ／社会に生きる」 近代文学に触れる「夢十夜」 旅への思い「土佐日記」 漢文を楽しむ「完璧」 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の展開のしかたを的確にとらえ、筆者の考えを理解する。 作者のものの見方や感じ方について、自分の考えをもつ。 『論語』の内容を正確にとらえ、学問と人生について孔子の考え方を理解する。 作品の状況設定を的確にとらえ、叙述から人物の心情や象徴性を読み取る。 文章の展開や和歌の内容に注意して、登場人物の心情を読み取る。 古人が示した知恵や教訓について、正確に理解する。

3 評価基準と評価方法

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習を通して、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。授業中の取り組み、発言、テスト等で評価する。	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方をとらえ、作品の内容を解釈している。授業中の取り組み、ノート、テスト等で評価する。	授業に主体的・協働的に取り組もうとするとともに、学習の目標を達成するために工夫している。授業中の取り組み、発言、ノートやレポートにおける記述、テストの応用問題等で評価をする。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

国語表現 (午前部)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	社会生活に欠かせない言語表現力の基礎を身に付けることを目指します。 話の要点をとらえ理解する力、要点がきちんと相手に伝わる話し方ができる力、文章で伝える力の基礎を身に付けることをねらいとします。		
使用教科書	『国語表現』(大修館書店)	補助教材	授業プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	表現力を培う 1 語彙を豊かにする。 2 整った文を書く。 3 小論文・レポートを書く。 3 効果的な自己PRを考える。 4 通信文の書き分け。	言語表現学習の意義や方法の概要を理解し、表現技法の基礎を習得する。 音声言語による表現方法の基礎を学習する。 論理的な思考と論理的な表現の必要性を理解する。 説得的な文章表現力の基礎を学習する。
後期	表現を楽しむ 1 言葉で遊ぶ。(回文・折句など) 2 詩歌を創作する。 3 ポスターやパンフレットを作成する。 4 エッセイを書く 5 物語を書く	どのようにして伝えるべき内容を生みだし、それをどのようにして分かりやすい言葉で表現するかについて、文章表現の実践を通して学ぶ。 表現活動の実践を通して、表現することの楽しさ、伝えることのうれしさを体験できるようにする。

3 評価

履修の条件	国語総合①を履修済みであること。
評価の方法	定期考査、提出物(作品)、出席状況を考慮して総合的に評価します。
留意事項	実際に書いたり話したりする実践的な授業です。定期テストの点数で評価を出す科目ではありませんので、平素の授業での学習活動を何より大切にしましょう。
アドバイス	表現力を付けるには、まず表現してみることです。積極的に話すこと、書くことを心がけましょう。

現代文A (午前部)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	近代以降の様々な文章を読むことによって我が国の言語文化に対する理解を深め、生涯にわたって読書に親しみ、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。		
使用教科書	「新編 現代文A」 (第一学習社)	補助教材	学習プリント

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画		学習内容
前期	新しい発見	『新しい地球観』	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようなテーマがどのように取り上げられているかを的確に読み取る。 ・多様な小説世界を味わって人間や社会についての認識を深め、読書に親しむ態度を養う。 ・文章の調子などを味わいながら音読や朗読をしたり、印象に残った内容や場面について文章中の表現を根拠にして説明したりする。
	小説を読む	『調律師のるり子さん』	
	言語と文化	『数え方で磨く日本語』	
	詩を味わう	『汚れちまった悲しみに…』	
後期	人間と文化	『コミュニケーションの文化』	<ul style="list-style-type: none"> ・人間や社会、自然などについての視野を広げ、自分なりに考える態度を養う。 ・多様な小説世界を味わって人間や社会についての認識を深め、読書に親しむ態度を養う。 ・筆者の意見、筆者の言う近代化の弊害を正確に読み取り、筆者の主張や意見を理解する。
	小説を読む	『こころ』	
	人生の風景	『出島のチューリップ』	
	人間と社会	『経験の教えについて』	

3 評価

履修の条件	国語総合①を履修済みであること。
評価の方法	定期考査、提出物、出席状況から総合的に評価します。
留意事項	本文をまずは、何度も何度も読んでみましょう。それがすべての出発点です。
アドバイス	1回1回の授業で学習したことを繰り返し練習することで、自分の道具にしていきましょう。

現代文B (午前部)	単位数	4単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	近代以降の様々な文章を読む能力を高めると共に、物の見方・感じ方・考え方を深めていきます。		
使用教科書	「明解現代文B 改訂版」(三省堂)	補助教材	授業プリント等

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	随想 「葉桜の頃」「蜜柑の受難」 小説 「水かまきり」「芋ようかん」 評論 「コンコルドの誤り」「想像する力」 詩 「汚れちまった悲しみに……」他 随想 「前の駅出ました」 「反対語を意識して考えよう」 小説 「ナイン」「カコの話」 評論 「持たないという豊かさ」「ネット人格」 小説 「こころ」	1 具体例を整理し、論の展開に即しながら筆者の主張を的確に理解する。 2 登場人物の心情を会話や場面描写から汲み取る。 3 漢字や慣用句を正しく理解する。
後期	随想 「春の小川の思い出」 「千年の時が与えてくれる安堵」 小説 「山椒魚」「ピクニックの準備」 評論 「科学的というのはどういう方法か」 「ホンモノのおカネの作り方」 俳句 「ノートの先に海 俳句十二句」 短歌 「ただ一枚の絵葉書 短歌十二首」 随想 「コモリン岬」「なまけものコンプレックス」 小説 「山月記」「魚の餌」 評論 「『自由』のはき違え」 「かけがえのない未来」	1 評論特有の表現に慣れる。文章の構成(展開)を理解する。 2 作中の人物の言動を通して心情を理解し、本文中に流れるテーマを考える。 3 俳句・短歌を繰り返し音読してリズムを味わい、俳句や短歌に描かれた情景や心情を豊かに想像する。

3 評価

履修の条件	国語総合①を履修済みであること。
評価の方法	定期考査、提出物、出席状況から総合的に評価します。
留意事項	その時間の目標にきちんと取り組み、成果を確認できるように課題を提出すること。
アドバイス	本文を何度も何度も読み、自分の力で要旨をとらえることができるように練習を続けましょう。

古典A (午前部)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	古典を読むことによって、日本の文化と伝統に関心を深め、古典に親しむ態度を育てる。日本文化の特質や日本文化と中国文化との関係について考えるとともに情報化・国際化等の社会の変化に対応できるものの見方、感じ方、考え方を育てる。		
使用教科書	古典A (右文書院) 説話・随筆・故事・小話・漢詩	補助教材	教材関連プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	<p>【古文編】 説話 母子猿 ・文字一つの返し 随筆 徒然草 序段から第141段の中から8編を選んで授業を行う。</p> <p>【漢文編】 故事・小話の中から10編を選んで行う。</p>	<p>歴史的仮名遣いを理解し、古典文法を学ぶことによって、基礎学力を確実に身に付ける。</p> <p>文章の響きを味わう朗読・音読に重きを置き、古典作品をより身近な親しみのある作品とする。</p>
後期	<p>【古文編】 随筆 徒然草・枕草子・方丈記・近世随筆の中から10編を選んで行う。</p> <p>【漢文編】 漢詩 絶句・律詩・古詩の中から5編を選んで行う。</p>	<p>音読・朗読することにより、古文と漢文に興味関心を育て、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。</p> <p>古典に親しむことによって、人生を豊かにする態度を育てる。</p>

3 評価

履修の条件	国語総合①を履修済みであること。
評価の方法	定期考査、授業内小テスト、提出物、出席状況、授業態度等を総合的に判断する。
留意事項	長い歴史の中で、受け継がれてきた古典に触れ、古文・漢文を身近なものとして楽しみましょう。
アドバイス	古典のリズムを味えるように、音読をくり返しおこなひましょう。

古典B (午前部)	単位数	4単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。		
使用教科書	「新編古典B」(東京書籍)	補助教材	学習プリント

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画			学習内容
前期	古文	随筆	『枕草子』	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の美意識やものの見方を読み取るとともに、当時の宮廷生活について理解する。 ・登場人物の心情を状況や行動に即して読み取るとともに、和歌の読解と鑑賞を通して歌物語の特徴を理解する。 ・比較的短い文章を読んで漢文に親しむ。
		物語	『伊勢物語』	
	漢文	物語	『項羽と劉邦』	
		小話	『寓話』	
後期	古文	物語	『源氏物語』	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文学の代表作である『源氏物語』を読み味わい、古文の奥深さを実感する。 ・平安時代の人々にとって「日記」とはどのようなものであったかを理解する。 ・和歌の表現技法を理解する。 ・それぞれの詩に表現されている情景や心情を読み取る。
		日記	『土佐日記』	
		和歌	『小倉百人一首』	
	漢文	物語	『十八史略』 『儒家と道家』	

3 評価

履修の条件	国語総合①を履修済みであること。
評価の方法	定期考査、授業内小テスト、提出物、出席状況、授業態度等を総合的に判断する。
留意事項	長い歴史の中で、受け継がれてきた古典に触れ、古文・漢文を身近なものとして楽しみましょう。
アドバイス	古文の世界に触れ、その内容の奥深さを味わってほしいと思います。

言語活用A (午後授業)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	社会生活に欠かせない言語表現力の基礎を身に付けることを目指す。 話の要点をとらえ理解する力、要点がきちんと相手に伝わる話し方ができる力、文章で伝える力の基礎を身に付ける。		
使用教科書	「国語表現 改訂版」(大修館書店)	補助教材	授業プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	表現力を培う 1 語彙を豊かにする。 2 整った文を書く。 3 小論文・レポートを書く。 4 効果的な自己PRを考える。 5 通信文の書き分け。	言語表現学習の意義や方法の概要を理解し、表現技法の基礎を習得する。 音声言語による表現方法の基礎を学習する。 論理的な思考と論理的な表現の必要性を理解する。 説得的な文章表現力の基礎を学習する。
後期	表現を楽しむ 1 言葉で遊ぶ。(回文・折句など) 2 詩歌を創作する。 3 ポスターやパンフレットを作成する。 4 エッセイを書く 5 物語を書く	どのようにして伝えるべき内容を生みだし、それをどのようにして分かりやすい言葉で表現するかについて、文章表現の実践を通して学ぶ。 表現活動の実践を通して、表現することの楽しさ、伝えることのうれしさを体験できるようにする。

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習の過程において、表現に必要な言葉の特徴や使い方、我が国の言語文化に関する知識及び技能を身につけている。定期考査や授業内のテストで知識の習得と技能の向上を図り、評価する。	目的や場面、状況などに応じて必要な知識・表現を的確に選び、言葉で表現したり、伝え合う力を身につけたりしている。授業中の取り組み、発言等で評価をする。	授業に主体的・協働的に取り組もうとすると共に、学習の目標を達成するために工夫している。授業中の取り組み、発言、ノートやレポートにおける記述等で評価をする。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

言語活用B	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	良文に触れたり、様々な課題に対応した小論文を書いたりする活動を通して、相手に正確でわかりやすく且つ説得力のある文章を書くために表現や構成を工夫する態度や実践的な表現力の定着を目指す。		
使用教科書	「国語表現」(教育出版) 「SDGs時代の国際協力」(岩波ジュニア新書)	補助教材	授業プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	表現力を培う 1 評論文を読む ・要約の方法 ・課題文から問いを見つける ・課題文型小論文を書く ・データ型小論文を書く 2 レポートを作成する ※「1 評論文を読む」は『SDGs時代の国際協力』(岩波ジュニア新書)より	<ul style="list-style-type: none"> ・現代的なテーマで書かれた評論文を用いながら、言語表現学習の意義や方法の概要を理解し、表現技法の基礎を習得する。 ・音声言語による表現方法の基礎を学習する。 ・論理的な思考と論理的な表現の必要性を理解する。 ・説得的な文章表現力の基礎を学習する。
後期	表現を楽しむ 1 エッセイを読む 3 エッセイを書く 4 物語を作る 5 メディアの特性を知り、情報を編集する	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようにして伝えるべき内容を生みだし、それをどのようにして分かりやすい言葉で表現するかについて、文章表現の実践を通して学ぶ。 ・表現活動の実践を通して、表現することの楽しさ、伝えることのうれしさを体験できるようにする。

3 評価基準と評価方法

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習の過程において、表現に必要な言葉の特徴や使い方、我が国の言語文化に関する知識及び技能を身につけている。定期考査や授業内のテストで知識の習得と技能の向上を図り、評価する。	目的や場面、状況などに応じて必要な知識・表現を的確に選び、言葉で表現したり、伝え合う力を身につけたりしている。授業中の取り組み、発言等で評価をする。	授業に主体的・協働的に取り組もうとすると共に、学習の目標を達成するために工夫している。授業中の取り組み、発言、ノートやレポートにおける記述等で評価をする。

教養国語 (午後授業)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	近代以降の様々な文章を読むことによって我が国の言語文化に対する理解を深め、生涯にわたって読書に親しみ、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。		
使用教科書	「新編 現代文A」(第一学習社) 「新編現代の国語」(大修館書店)「新編国語総合改訂版」(大修館書店)	補助教材	学習プリント

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	新しい発見 『新しい地球観』 小説を読む 『調律師のりり子さん』 言語と文化 『数え方で磨く日本語』 詩を味わう 『汚れちまった悲しみに…』 読書の広場 『ももこのいきもの図鑑』 *「読書の広場」は「新編現代の国語」(大修館書店)より	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようなテーマがどのように取り上げられているかを的確に読み取る。 ・多様な小説世界を味わって人間や社会についての認識を深め、読書に親しむ態度を養う。 ・文章の調子などを味わいながら音読や朗読をしたり、印象に残った内容や場面について文章中の表現を根拠にして説明したりする。 ・読書に親しみ、読書を楽しむ機会をもつ。
後期	人間と文化 『コミュニケーションの文化』 小説を読む 『卒業』 人生の風景 『出島のチューリップ』 人間と社会 『経験の教えについて』 読書の広場 『宇宙人はいますか?』 *「読書の広場」は「新編現代の国語」(大修館書店)より	<ul style="list-style-type: none"> ・人間や社会、自然などについての視野を広げ、自分なりに考える態度を養う。 ・多様な小説世界を味わって人間や社会についての認識を深め、読書に親しむ態度を養う。 ・筆者の意見、筆者の言う近代化の弊害を正確に読み取り、筆者の主張や意見を理解する。 ・共通の読書教材を読むことで自分の考えたことを発表し合う。

3 評価基準と評価方法

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文学的な文章における言葉の特徴や使い方、我が国の言語文化に関する知識及び技能を身につけている。定期考査や授業内のテストで知識の習得と技能の向上を図り、評価する。	文学的な文章を的確に理解し、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、表現したいことを明確に書いたり、伝えたりできる。授業中の取り組み、発言等で評価をする。	授業に主体的・協働的に取り組もうとすると共に、学習の目標を達成するために工夫している。授業中の取り組み、発言、ノートやレポートにおける記述等で評価をする。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

古典基礎 (午後授業)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	古典を読むことによって、日本の文化と伝統に関心を深め、古典に親しむ態度を育てる。日本文化の特質や日本文化と中国文化との関係について考えるとともに情報化・国際化等の社会の変化に対応できるものの見方、感じ方、考え方を育てる。	
使用教科書	「説話・随筆・故事・小話・漢詩 史話」(右文書院) 「要抄 更級日記」(日栄社)	補助教材 授業プリントなど

2 授業計画と学習内容

	授業計画	学習内容
前期	<p>【古文編】</p> <p>説話 母子猿 ・文字一つの返し</p> <p>随筆 徒然草 序段から第141段の中から8編を選んで授業を行う。</p> <p>日記 更級日記 一から七の中から3編を選んで授業を行う。</p> <p>※「日記」は「要抄 更級日記」(日栄社)より。</p> <p>【漢文編】</p> <p>故事・小話の中から10編を選んで行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣いを理解し、古典文法を学ぶことによって、古典に関する基礎学力を確実に身に付ける。 ・文章の響きを味わう朗読・音読に重きを置き、古典作品をより身近な親しみのある作品とする。
後期	<p>【古文編】</p> <p>随筆 徒然草・枕草子・方丈記・近世随筆の中から10編を選んで行う。</p> <p>日記 更級日記 八から十五の中から3編を選んで授業を行う。</p> <p>※「日記」は「要抄 更級日記」(日栄社)より。</p> <p>【漢文編】</p> <p>漢詩 絶句・律詩・古詩の中から5編を選んで行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音読・朗読することにより、古文と漢文に興味をもち、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。 ・古典を読むために必要なきまりについて理解を深め、先人のものの見方・考え方に親しむ。

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
古典を読むために必要な語句の特徴や使い方、我が国の言語文化に関する知識及び技能を身につけている。定期考査や授業内のテストで知識の習得と技能の向上を図り、評価する。	古典の作品や文章を的確にとらえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、さまざまな言語活動を通して、自分の考えを言葉で表現することができる。授業中の取り組み、発言等で評価をする。	授業に主体的・協働的に取り組もうとすると共に、学習の目標を達成するために工夫している。授業中の取り組み、発言、ノートやレポートにおける記述等で評価をする。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

現代文B (午後授業)	単位数	4単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	近代以降の様々な文章を読む能力を高めると共に、物の見方・感じ方・考え方を深めていきます。		
使用教科書	「明解現代文B改訂版」(三省堂)	補助教材	授業プリント等

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	随想 「葉桜の頃」「蜜柑の受難」 小説 「水かまきり」「芋ようかん」 評論 「コンコルドの誤り」「想像する力」 詩 「汚れちまった悲しみに……」他 随想 「前の駅出ました」 「反対語を意識して考えよう」 小説 「ナイン」「カコの話」 評論 「持たないという豊かさ」「ネット人格」 小説 「こころ」	1 具体例を整理し、論の展開に即しながら筆者の主張を的確に理解する。 2 登場人物の心情を会話や場面描写から汲み取る。 3 漢字や慣用句を正しく理解する。
後期	随想 「春の小川の思い出」 「千年の時が与えてくれる安堵」 小説 「山椒魚」「ピクニックの準備」 評論 「科学的というのはどういう方法か」 「ホンモノのおカネの作り方」 俳句 「ノートの先に海 俳句十二句」 短歌 「ただ一枚の絵葉書 短歌十二首」 随想 「コモリン岬」「なまけものコンプレックス」 小説 「山月記」「魚の餌」 評論 「『自由』のはき違え」 「かけがえのない未来」	1 評論特有の表現に慣れる。文章の構成(展開)を理解する。 2 作中の人物の言動を通して心情を理解し、本文中に流れるテーマを考える。 3 俳句・短歌を繰り返し音読してリズムを味わい、俳句や短歌に描かれた情景や心情を豊かに想像する。

3 評価

履修の条件	国語総合①を履修済みであること。
評価の方法	定期考査、提出物、出席状況から総合的に評価します。
留意事項	その時間の目標にきちんと取り組み、成果を確認できるように課題を提出すること。
アドバイス	本文を何度も何度も読み、自分の力で要旨をとらえることができるように練習を続けましょう。

古典B (午後授業)	単位数	4単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。		
使用教科書	「新編古典B」(東京書籍)	補助教材	学習プリント

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画			学習内容
前期	古文	随筆	『枕草子』	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の美意識やものの見方を読み取るとともに、当時の宮廷生活について理解する。 ・登場人物の心情を状況や行動に即して読み取るとともに、和歌の読解と鑑賞を通して歌物語の特徴を理解する。 ・比較的短い文章を読んで漢文に親しむ。
		物語	『伊勢物語』	
	漢文	物語	『項羽と劉邦』	
		小話	『寓話』	
後期	古文	物語	『源氏物語』	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文学の代表作である『源氏物語』を読み味わい、古文の奥深さを実感する。 ・平安時代の人々にとって「日記」とはどのようなものであったかを理解する。 ・和歌の表現技法を理解する。 ・それぞれの詩に表現されている情景や心情を読み取る。
		日記	『土佐日記』	
		和歌	『小倉百人一首』	
	漢文	物語	『十八史略』 『儒家と道家』	

3 評価

履修の条件	国語総合①を履修済みであること。
評価の方法	定期考査、授業内小テスト、提出物、出席状況、授業態度等を総合的に判断する。
留意事項	長い歴史の中で、受け継がれてきた古典に触れ、古文・漢文を身近なものとして楽しみましょう。
アドバイス	古文の世界に触れ、その内容の奥深さを味わってほしいと思います。

現代の国語 初級 (夜間部)	単位数	2単位
	履修区分	必履修

1 科目の概要

学習目標	これからの社会や生活に必要なことばの基礎的な力として、「話す・聞く」「書く」「読む」力を身に付けることを目指す。他者に共感する力、論理的に考える力、言葉で伝え合う力を高める。		
使用教科書	「新編 現代の国語」(大修館書店)	補助教材	授業プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	1 ことばをひらく	・言葉の正確な意味や正しい用法やさまざまな使い分けを理解し、言葉の基礎を固める。 ・説明の仕方やインタビューのポイントを知り、聞く力を高める学習に取り組むことで、論理的・共感的なコミュニケーションを学ぶ。 ・主張と根拠、具体と抽象、類推・対比などの論理の読み解き方を知ること、読む力を高める。 ・小説の内容理解をもとにしたポップ作成。
	2 日本語を使いこなす ・整った文を書く	
	3 わかりやすく説明する ・絵や写真を説明しよう	
	4 聞く力を育む	
	5 論理を読み取る *「夢十夜」のポップを作る	
後期	6 伝え合いのレッスン	・対話のレッスンや意見文の書き方を学習することで、双方向のコミュニケーションについて学びを深める。 ・小説の内容理解をもとに自分の考えを伝える。 ・情報の吟味の仕方や依頼状の書き方などを通して、実社会・実生活との関連が深い課題に向き合い、読む力とともに課題解決のための表現力を培う。
	7 説得力を高める *「羅生門」について自分の意見を伝える。	
	8 情報と向き合う ・レポートを書こう	
	9 他者を動かす ・依頼状を書こう	
	10 社会に目を向けて	

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習の過程において、表現に必要な言葉の特徴や使い方、論理的な文章読み取るための知識及び技能を身につけている。定期考査や授業内のテストで知識の習得と技能の向上を図り、評価する。	目的や場面、状況などに応じて必要な知識・表現を的確に選び、言葉で表現し、伝え合う力を身に付けている。授業中の取り組み、発言等で評価をする。	授業に主体的・協働的に取り組もうとするとともに、学習の目標を達成するために工夫している。授業中の取り組み、発言、ノートやレポートにおける記述、テストの応用問題等で評価をする。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

現代の国語 標準 (夜間部)	単位数	2単位
	履修区分	必履修

1 科目の概要

学習目標	これからの社会や生活に必要なことばの基礎的な力として、「話す・聞く」「書く」「読む」力を身に付けることを目指す。他者に共感する力、論理的に考える力、言葉で伝え合う力を高める。		
使用教科書	「新編 現代の国語」(大修館書店)	補助教材	授業プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	1 ことばをひらく	・言葉の正確な意味や正しい用法やさまざまな使い分けを理解し、言葉の基礎を固める。 ・説明の仕方やインタビューのポイントを知り、聞く力を高める学習に取り組むことで、論理的・共感的なコミュニケーションを学ぶ。 ・主張と根拠、具体と抽象、類推・対比などの論理の読み解き方を知ること、読む力を高める。 ・小説の内容理解をもとにしたポップ作成。
	2 日本語を使いこなす ・整った文を書く	
	3 わかりやすく説明する ・絵や写真を説明しよう	
	4 聞く力を育む	
	5 論理を読み取る *「夢十夜」のポップを作る	
後期	6 伝え合いのレッスン	・対話のレッスンや意見文の書き方を学習することで、双方向のコミュニケーションについて学びを深める。 ・小説の内容理解をもとに自分の考えを伝える。 ・情報の吟味の仕方や依頼状の書き方などを通して、実社会・実生活との関連が深い課題に向き合い、読む力とともに課題解決のための表現力を培う。
	7 説得力を高める *「羅生門」について自分の意見を伝える。	
	8 情報と向き合う ・レポートを書こう	
	9 他者を動かす ・依頼状を書こう	
	10 社会に目を向けて	

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習の過程において、表現に必要な言葉の特徴や使い方、論理的な文章読み取るための知識及び技能を身につけている。定期考査や授業内のテストで知識の習得と技能の向上を図り、評価する。	目的や場面、状況などに応じて必要な知識・表現を的確に選び、言葉で表現し、伝え合う力を身に付けている。授業中の取り組み、発言等で評価をする。	授業に主体的・協働的に取り組もうとするとともに、学習の目標を達成するために工夫している。授業中の取り組み、発言、ノートやレポートにおける記述、テストの応用問題等で評価をする。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

言語文化 初級 (夜間部)	単位数	2単位
	履修区分	必履修

1 科目の概要

学習目標	これまで受け継がれてきた我が国の言語文化について学ぶことを通して、現代文や古文、漢文などの文章を的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。		
使用教科書	「新編 言語文化」(大修館書店)	補助教材	授業プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	<ul style="list-style-type: none"> ことばと出会う「言葉の森を育てよう」 古文に親しむ「古文への招待」 「児のそら寝」 漢文に親しむ「訓読のきまり／格言／再読文字」 物語を受け継ぐ「羅生門」 物語の広がり「伊勢物語」 現代に生きる言葉「守株」 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉についての筆者の考えを読み取り、言葉が果たしている役割を理解する。 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 漢文の訓読のきまりについて理解する。 漢語・漢文と我が国の言語文化の関係について理解を深める。 小説の構成をとらえ、登場人物の心情の変化を読み取る。 登場人物の行動や場面の展開を正確に把握する。 和歌に表れた心情を読み取り、本文の中で和歌が果たしている役割を考える。 「株を守る」という言葉の意味について、考えを深める。
後期	<ul style="list-style-type: none"> ことばと生きる「コルベ神父」 随筆を楽しむ「高名の木登り」 古人に学ぶ「論語 学問のすすめ／社会に生きる」 近代文学に触れる「夢十夜」 旅への思い「土佐日記」 漢文を楽しむ「完璧」 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の展開のしかたを的確にとらえ、筆者の考えを理解する。 作者のものの見方や感じ方について、自分の考えをもつ。 『論語』の内容を正確にとらえ、学問と人生について孔子の考え方を理解する。 作品の状況設定を的確にとらえ、叙述から人物の心情や象徴性を読み取る。 文章の展開や和歌の内容に注意して、登場人物の心情を読み取る。 古人が示した知恵や教訓について、正確に理解する。

3 評価基準と評価方法

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習を通して、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。授業中の取り組み、発言、テスト等で評価する。	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方をとらえ、作品の内容を解釈している。授業中の取り組み、ノート、テスト等で評価する。	授業に主体的・協働的に取り組もうとするとともに、学習の目標を達成するために工夫している。授業中の取り組み、発言、ノートやレポートにおける記述、テストの応用問題等で評価をする。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

言語文化 標準 (夜間部)	単位数	2単位
	履修区分	必履修

1 科目の概要

学習目標	これまで受け継がれてきた我が国の言語文化について学ぶことを通して、現代文や古文、漢文などの文章を的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。		
使用教科書	「新編 言語文化」(大修館書店)	補助教材	授業プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	<ul style="list-style-type: none"> ことばと出会う「言葉の森を育てよう」 古文に親しむ「古文への招待」 「児のそら寝」 漢文に親しむ「訓読のきまり／格言／再読文字」 物語を受け継ぐ「羅生門」 物語の広がり「伊勢物語」 現代に生きる言葉「守株」 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉についての筆者の考えを読み取り、言葉が果たしている役割を理解する。 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 漢文の訓読のきまりについて理解する。 漢語・漢文と我が国の言語文化の関係について理解を深める。 小説の構成をとらえ、登場人物の心情の変化を読み取る。 登場人物の行動や場面の展開を正確に把握する。 和歌に表れた心情を読み取り、本文の中で和歌が果たしている役割を考える。 「株を守る」という言葉の意味について、考えを深める。
後期	<ul style="list-style-type: none"> ことばと生きる「コルベ神父」 随筆を楽しむ「高名の木登り」 古人に学ぶ「論語 学問のすすめ／社会に生きる」 近代文学に触れる「夢十夜」 旅への思い「土佐日記」 漢文を楽しむ「完璧」 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の展開のしかたを的確にとらえ、筆者の考えを理解する。 作者のものの見方や感じ方について、自分の考えをもつ。 『論語』の内容を正確にとらえ、学問と人生について孔子の考え方を理解する。 作品の状況設定を的確にとらえ、叙述から人物の心情や象徴性を読み取る。 文章の展開や和歌の内容に注意して、登場人物の心情を読み取る。 古人が示した知恵や教訓について、正確に理解する。

3 評価基準と評価方法

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習を通して、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。授業中の取り組み、発言、テスト等で評価する。	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方をとらえ、作品の内容を解釈している。授業中の取り組み、ノート、テスト等で評価する。	授業に主体的・協働的に取り組もうとするとともに、学習の目標を達成するために工夫している。授業中の取り組み、発言、ノートやレポートにおける記述、テストの応用問題等で評価をする。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

国語表現 (夜間部)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	社会生活に欠かせない言語表現力の基礎を身に付けることを目指します。 話の要点をとらえ理解する力、要点がきちんと相手に伝わる話し方ができる力、文章で伝える力の基礎を身に付けることをねらいとします。		
使用教科書	「国語表現」(大修館書店)	補助教材	授業プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	表現力を培う 1 語彙を豊かにする。 2 整った文を書く。 3 小論文・レポートを書く。 3 効果的な自己PRを考える。 4 通信文の書き分け。	言語表現学習の意義や方法の概要を理解し、表現技法の基礎を習得する。 音声言語による表現方法の基礎を学習する。 論理的な思考と論理的な表現の必要性を理解する。 説得的な文章表現力の基礎を学習する。
後期	表現を楽しむ 1 言葉で遊ぶ。(回文・折句など) 2 詩歌を創作する。 3 ポスターやパンフレットを作成する。 4 エッセイを書く 5 物語を書く	どのようにして伝えるべき内容を生みだし、それをどのようにして分かりやすい言葉で表現するかについて、文章表現の実践を通して学ぶ。 表現活動の実践を通して、表現することの楽しさ、伝えることのうれしさを体験できるようにする。

3 評価

履修の条件	国語総合①を履修済みであること。
評価の方法	定期考査、提出物(作品)、出席状況を考慮して総合的に評価します。
留意事項	実際に書いたり話したりする実践的な授業です。定期テストの点数で評価を出す科目ではありませんので、平素の授業での学習活動を何より大切にしましょう。
アドバイス	表現力を付けるには、まず表現してみることです。積極的に話すこと、書くことを心がけましょう。

現代文A (夜間部)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	近代以降の様々な文章を読むことによって我が国の言語文化に対する理解を深め、生涯にわたって読書に親しみ、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。		
使用教科書	「新編現代文A」 (第一学習社)	補助教材	学習プリント

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	随想 『なぜ”コロンブスの卵”を描くのか』 『花女房』 小説 『鼻』 『ナイン』 評論 『コミュニケーションの文化』 詩 『汚れちまった悲しみに・・・』 『永訣の朝』	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようなテーマがどのように取り上げられているかを的確に読み取る。 ・多様な小説世界を味わって人間や社会についての認識を深め、読書に親しむ態度を養う。 ・文章の調子などを味わいながら音読や朗読をしたり、印象に残った内容や場面について文章中の表現を根拠にして説明したりする。
後期	随想 『新しい地球観』 『出島のチューリップ』 小説 『こころ』 『山月記』 評論 『大量生産の眩暈』 『経験の教えについて』 詩歌 『短歌と俳句』	<ul style="list-style-type: none"> ・人間や社会、自然などについての視野を広げ、自分なりに考える態度を養う。 ・多様な小説世界を味わって人間や社会についての認識を深め、読書に親しむ態度を養う。 ・筆者の意見、筆者の言う近代化の弊害を正確に読み取り、筆者の主張や意見を理解する。

3 評価

履修の条件	国語総合①を履修済みであること。
評価の方法	定期考査、提出物、出席状況から総合的に評価します。
留意事項	本文をまずは、何度も何度も読んでみましょう。それがすべての出発点です。
アドバイス	1回1回の授業で学習したことを繰り返し練習することで、自分の道具にしていきましょう。

現代文B (夜間部)	単位数	4単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	近代以降の様々な文章を読む能力を高めると共に、物の見方・感じ方・考え方を深めていきます。		
使用教科書	「明解現代文 B 改訂版」(三省堂)	補助教材	授業プリント等

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	随想 「葉桜の頃」「蜜柑の受難」 小説 「水かまきり」「芋ようかん」 評論 「コンコルドの誤り」「想像する力」 詩 「汚れちまった悲しみに……」他 随想 「前の駅出ました」 「反対語を意識して考えよう」 小説 「ナイン」「カコの話」 評論 「持たないという豊かさ」「ネット人格」 小説 「こころ」	1 具体例を整理し、論の展開に即しながら筆者の主張を的確に理解する。 2 登場人物の心情を会話や場面描写から汲み取る。 3 漢字や慣用句を正しく理解する。
後期	随想 「春の小川の思い出」 「千年の時が与えてくれる安堵」 小説 「山椒魚」「ピクニックの準備」 評論 「科学的というのはどういう方法か」 「ホンモノのおカネの作り方」 俳句 「ノートの先に海 俳句十二句」 短歌 「ただ一枚の絵葉書 短歌十二首」 随想 「コモリン岬」「なまけものコンプレックス」 小説 「山月記」「魚の餌」 評論 「『自由』のはき違え」 「かけがえのない未来」	1 評論特有の表現に慣れる。文章の構成(展開)を理解する。 2 作中の人物の言動を通して心情を理解し、本文中に流れるテーマを考える。 3 俳句・短歌を繰り返し音読してリズムを味わい、俳句や短歌に描かれた情景や心情を豊かに想像する。

3 評価

履修の条件	国語総合①を履修済みであること。
評価の方法	定期考査、提出物、出席状況から総合的に評価します。
留意事項	その時間の目標にきちんと取り組み、成果を確認できるように課題を提出すること。
アドバイス	本文を何度も何度も読み、自分の力で要旨をとらえることができるように練習を続けましょう。

古典A (夜間部)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	古典を読むことによって、日本の文化と伝統に関心を深め、古典に親しむ態度を育てる。日本文化の特質や日本文化と中国文化との関係について考えるとともに情報化・国際化等の社会の変化に対応できるものの見方、感じ方、考え方を育てる。		
使用教科書	古典A (右文書院) 説話・随筆・故事・小話・漢詩	補助教材	教材関連プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	<p>【古文編】 説話 母子猿 ・文字一つの返し 随筆 徒然草 序段から第141段の中から8編を選んで授業を行う。</p> <p>【漢文編】 故事・小話の中から10編を選んで行う。</p>	<p>歴史的仮名遣いを理解し、古典文法を学ぶことによって、基礎学力を確実に身に付ける。</p> <p>文章の響きを味わう朗読・音読に重きを置き、古典作品をより身近な親しみのある作品とする。</p>
後期	<p>【古文編】 随筆 徒然草・枕草子・方丈記・近世随筆の中から10編を選んで行う。</p> <p>【漢文編】 漢詩 絶句・律詩・古詩の中から5編を選んで行う。</p>	<p>音読・朗読することにより、古文と漢文に興味関心を育て、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。</p> <p>古典に親しむことによって、人生を豊かにする態度を育てる。</p>

3 評価

履修の条件	国語総合①を履修済みであること。
評価の方法	定期考査、授業内小テスト、提出物、出席状況、授業態度等を総合的に判断する。
留意事項	長い歴史の中で、受け継がれてきた古典に触れ、古文・漢文を身近なものとして楽しみましょう。
アドバイス	古典のリズムを味わえるように、音読をくり返しおこなひましょう。